



北海道大学 社会科学実験研究センター

2021 年度年次活動報告書

2022 年 6 月



北海道大学 社会科学実験研究センター
2021 年度年次活動報告書 (2022 年 6 月)

※センターの沿革などについてはホームページへ移行しました。
<https://lynx.let.hokudai.ac.jp/cerss/>

1. 社会科学実験研究センターとは

(1) センターの理念

- ・社会科学における実験研究のための手法の開発と普及を通して、社会科学の実験科学化を推進する。
- ・社会科学における実験研究の本格的導入により、人間科学と社会科学の双方に対して共通の対話可能な研究環境を提供する。
- ・人間・社会科学における実験研究のための国際実験ネットワークの構築を進め、世界各国の拠点を結ぶ国際実験の促進をめざす。
- ・実験研究を通して人間科学と社会科学とを結びつけるための研究活動を行い、その成果を国際的に発信することのできる若手人材を育成する。

(2) センターの主な役割

- ・社会科学実験の国際拠点として先端的研究を展開し、研究成果を国際発信する。
- ・社会科学実験の中心として、他大学の研究者との協力のもと、若手研究者を育成する（博士研究員・リサーチャーの受け入れ、ワークショップの開催等）。

(3) 施設概要

北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 6 階に、1) 集団実験室、2) 国際ネットワーク実験室、3) 感覚システム実験室を有している。これらの実験設備は、国際的にも最高水準の社会科学実験施設である。

2. 2021 年度の活動実績の概要

(1) 施設利用

新型コロナウイルス蔓延の影響により、対面実験の実施は小規模であったが、当センターの保有する実験参加者プールを用いて、オンライン実験が実施された。

- ・実験室稼働総日数：延べ 24 日
- ・実験参加者数：1,058 名 (8 プロジェクト)

(2) 研究業績

<人文・社会科学系の兼務教員に限定>

- ・著書・分担執筆：計 10 件（うち洋書 4 件、和書 6 件）
 - ・学術論文：計 43 件（うち国際誌 30 件、国内誌 13 件）
 - ・学会発表：計 48 件（うち国際学会 19 件、国内学会 29 件）
- (詳細は「p. 7~10 研究業績一覧」参照)。

(3) 競争的資金獲得

- ・科学研究費補助金：44 件、総額 128,070 千円
- ・その他の研究助成：6 件、9,076 千円

(※分担者に関しては分担額を参照) (詳細は「資料 4 競争的資金獲得状況 (p. 4~6)」参照)

(4) 拠点間連携

連携研究員との活動を通じて、海外の先端研究拠点との連携を引き続き推進している。前センター長の結城は、オックスフォード大学社会的凝集性研究センター所長であり、同大学社会人類学科長でもある Harvey Whitehouse 教授が主導する心理学・人類学・歴史学の融合を通じて人間行動と文化の進化・発展を検討する国際共同研究プロジェクト Seshat に参画している。センター長の大沼進教授は、Asian Journal of Social Psychology の編集委員長をはじめ様々な国際誌の編集委員を務める香港科技大学社会科学部 Kim-Pong Tam 准教授と、環境行動の国際比較調査の共同研究を推進している。

国内の主要拠点との連携も強化している。2021 年度からは、京都大学情報学研究所教授で、人工知能学会の業績賞や功績賞、国際知識情報創造システム学会など国際学会で数々の優秀発表賞を受賞するなど、マルチエージェントシステム分野ではトップランナーの伊藤孝行教授を連携研究員に迎え、JST-CREST などを通じた共同研究を行っている。

(5) 若手研究者の支援とその成果

- ・本センターで研究を行った大学院生の競争的外部資金獲得：3 件、学術賞：9 件 (表 1)
- ・日本学術振興会特別研究員：9 名 (表 2)

表 1 2021 年度に院生および研究員が獲得した学会賞・学術賞・フェローシップ・研究助成

氏名	獲得年度	学会賞・学術賞・フェローシップ
横山実紀	2021	北海道大学大塚賞
横山実紀	2021	科学技術融合振興財団 第 15 回 FOST 新人賞
横山実紀	2021	日本シミュレーション&ゲーミング学会奨励賞
澤頭亮	2021	日本生物学的精神医学会第 1 回若手精神科医生物学的精神医学研究奨励賞
本間祥吾	2021	日本人間行動進化学会第 14 回大会若手発表賞(最優秀賞)
中田星矢	2021	日本人間行動進化学会第 14 回大会若手発表賞(優秀賞)
貴堂雄太	2021	日本人間行動進化学会第 14 回大会若手発表賞(優秀賞)
宮崎聖人	2021	日本社会心理学会 2021 年度若手研究者奨励賞
宮崎聖人	2021	第 17 回ネットワーク生態学シンポジウムポスター優秀賞
舘石和香葉	2020~2022	科学技術融合振興財団助成事業補助金助成

宮崎聖人	2021	日本心理学会若手の会 大会参加費支援制度
宮崎聖人	2021	北海道大学大学院文學院 共生の人文科学プロジェクト旅費支援

表2 日本学術振興会特別研究員

氏名	資格	受給期間(年度)	研究費(千円)	研究課題名
前澤知輝	DC1	2020～2022	1,100	行為・知覚ベースの聴空間表象形成に関わる要因の特定と反響定位能力の推定
前田友吾	DC1	2021～2023	500	協力行動の多様性をもたらすもの：関係流動性と自己意識の感情の役割
中田星矢	DC1	2020～2022	1,000	教育による社会の発展をモデル化する—文化進化研究による理論・実証アプローチ—
笹森瞳	DC1	2019～2021	1,100	ノルアドレナリン神経からのドパミン遊離機構とD5受容体による衝動性制御機構の解明
澤頭亮	DC1	2019～2021	1,000	霊長類モデルを用いた作業記憶を更新する神経メカニズムの解明
反田智之	DC1	2021～2023	500	注意の抑制的制御と特性・状態不安のクロストーク
舘石和香葉	DC1	2020～2022	1,000	集団を越えた相互協力関係及び相互信頼関係の構築に関する実証・理論的検討
山内健司	DC1	2019～2021	1,000	視覚的印付けにおける抑制テンプレートの可塑性と現実場面への拡張
横山実紀	DC1	2019～2021	400	忌避施設立地問題における段階的意思決定の事前合意：潜在的当事者と公正の実証研究

(6) 教育活動

- ・大学院共通授業科目「入門ベイジアンモデリング」を開講した。また本学のサマープログラムである Hokkaido Summer Institute 2021 (HSI2021)で招聘された世界第一線の文化心理学者（アルバータ大学心理学部・増田貴彦教授、ウィスコンシン大



図1 増田教授による大学院生への指導風景

学グリーンベイ校心理学部・先崎沙和准教授)より、当センターで研究を行っている大学院生が研究指導を受けた。また、当センター主催のコロナキウム（「CERSS コロナキウム」）を6件開催し、この他にも、共催ワークショップや学術セミナーを随時開催した。

3. 2021年度の活動の点検・総括

(1) 4つの目標別の点検・評価

①新型コロナウイルスの影響により、実験参加者が実験室を訪れて実施される対面実験は小規模にとどまった。しかしながら、当センターの保有する実験参加者登録システムを用いて、オンライン実験が大規模に実施された。このような厳しい状況下にも関わらず、次のように高い活動水準を維持した。

2021年度に本センターの参加者登録システムや実験設備のインフラを利用した実験は8件実施され、総実験室稼働日数は年間延べ24日、実験参加者総数は延べ1,058名であった。延べ1,000人以上という実験参加者数は、この規模での実験研究の組織的推進は国内において類例がなく、国際的にも屈指の規模である。

②社会科学実験分野における有為の若手人材の育成

「若手研究者の支援とその成果」(p.1～2)にも示したように、本センターに活動基盤を置く若手研究者が9件の学術賞を得た。特筆すべき事項として、科学技術融合振興財団新人賞を、本学の現役大学院生からは初となる受賞をした。

また、日本学術振興会の特別研究員として9名が採用され、特別研究員奨励費9件に加えて3件の競争的外部資金を獲得した。これらの数字は、当センターが、自立した研究者の育成に向けて、若手が早期から主体的な研究活動を行えるための場を提供してきたことの表れと言えよう。

ゲストスピーカーを招き CERSS コロナキウムを6回実施した。また、Hokkaido Summer Institute 2021として文学研究院が開催した、アルバータ大学心理学部の増田貴彦教授による集中講義「文化心理学の最前線2021」の開講を支援し、その機会をより有効に活かすために大学院生向けの英語論文執筆ワークショップを開催した。

これまで当センターで教育指導を受けた若手研究者は、実験社会科学を担う有為の人材として高く評価され、国内外の大学や研究機関のポジションを獲得してきた。昨年度は、本拠点で教育を受けた大学院生及び出身者が、浙江師範大学講師、久留米大学准教授、大阪市立大学准教授、広島大学助教、立正大学助教、安田女子大学講師、NTT研究所研究院に新たなポジションを得た。

以上のように、本センターでは、「社会科学実験分野における有為の若手人材の育成」という所期の目標が着実に達成されている。

③国際的にインパクトのある研究成果の発信

2021年度には、計52本の国際学術論文が掲載もしくは掲載決定し、21件の国際学会発表がなされた。本センター構成員（兼務教員及びその指導学生や雇用ポスト等）による学術論文は、*Scientific Reports*、*PLoS ONE*（総合科学）、*Group Processes and Intergroup Relations*（心理学）、*Neuroscience*（脳神経科学）など広範な領域にまたがる第一線の国際学術誌に掲載された。また、本センター構成員による論文は、心理学、経済学、経営学、社会学、政治学、法学、人類学、情報科学、進化生物学、動物行動学、社会物理学など、やはり広範な領域の国際学術誌で多数の引用を受けている。例えば Altmetric Score で、センター長の大沼の論文が Top 5% を、兼務教員の河原の論文が Top 10% を維持している。

図2は、本センター構成員による論文の国際学術誌における引用回数の推移を示している。この図から、本センターが発足した2007年以降、国際業績が着実に増加傾向にあることがわかる（注：本センターには、2013年度より新たに医歯薬系部局からの兼務教員が加わり国際学術論文の被引用数が急増した。しかし、人文・社会科学系と医歯薬系では平均的な被引用論文数に大きな相違がある。そこで業績の推移を公正に評価するために、人文・社会科学系の構成員による研究成果のみを掲載した。）

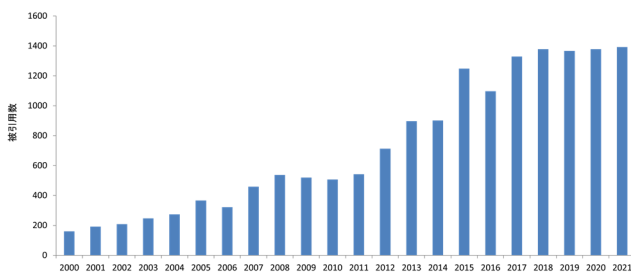


図2 国際学術誌における論文被引用数の推移。

さらに、前センター長の結城が、文化心理学領域への貢献を認められ、世界最大の社会心理学会である Society for Personality and Social Psychology の Advances in Cultural Psychology Preconference 分科会から、"Outstanding Contribution to Cultural Psychology Award" を受賞した。

図3に、院生・ポストが第一著者となって出版された国際学術論文数の推移を示す。本センターでは、2020年度より SAGE Publishing および HUCI (Hokkaido ユニバーサルキャンパス・イニシアチブ) の支援による英語論文執筆指導を実施してい

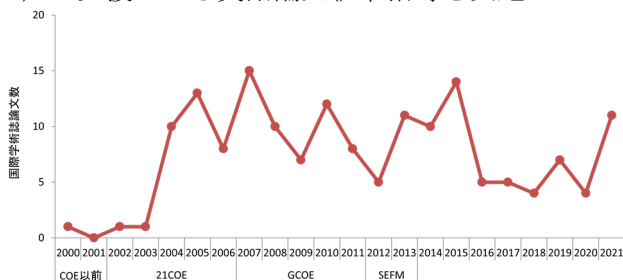


図3 院生・PD が第一著者として公刊した国際学術論文数の推移

る。2021年度の大きな増加は、その成果の一端が現れたものと考えられる。

以上のように、「国際的にインパクトのある研究成果の発信」という所期の目標の達成に向け、着実な進展が見られる。

④ 国内外の研究拠点との連携強化を通じた、人間・社会科学における実験研究のための国際ネットワークの構築

本センターは、大型研究資金（新学術領域研究、科研費基盤Sなど）の獲得などを通じて、国内外の主要研究拠点（東京大学人文社会系研究科・総合文化研究科、京都大学霊長類研究所、玉川大学脳科学研究科、北陸先端総合科学大学院大学、名古屋大学情報学研究科、英オックスフォード大学認知進化人類学研究所、独マックスプランク進化人類学研究所、香港科技大社会科学部、英サセックス大学心理学部、米ウィリアム&メリー大学心理学科、米ノースカロライナ大学ビジネススクール、米シカゴ大学ビジネススクールなど）との間に共同研究体制を構築してきた。

2020年1月30日付で日本学術会議が公開した「第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン」（マスタープラン2020）では、学術大型研究計画（区分I）の一つに「調和ある多様性に向けての新しい心理学の構築」が採択され、北海道大学もその実施機関に含まれている。同計画は、マスタープラン2010、および文科省「最先端研究基盤事業」の補助対象事業としても採択された「心の先端研究のための連携拠点（WISH）構築」事業で積み重ねられた実績を、さらに次のフェーズへと飛躍させるものであると位置づけられている。WISH事業では、本センターに対してシーメンス社製3テスラ MAGNETOM Prisma（施設整備費補助事業; 3億円）が導入され、現在も本センターの研究設備として稼働している。同装置は本学医歯学総合研究棟に設置され、本センターに所属するメンバーだけでなく、医学系から理学系、教育学系に至る全学の研究者によって幅広く利用されている。本装置の導入を通じて、学内の部局間に加え、学内外の先端研究拠点間の壁を超えた研究連携が推進されている。

（2）総括と今後の展望

以上のように、本センターは、教育および研究活動を通じて、社会科学実験の国際的中核拠点としての高い評価を確立してきた。こうした実績は、「社会科学実験に関する教育研究の進展に資することを目的とする」という本センターの設立目的に適うものである。

このように、本センターは社会科学実験の国際的中核拠点として、日々の研究教育活動を鋭意展開している。北海道大学の人文社会科学分野における屈指の先端研究拠点として、社会科学実験の国際的進展と普及に努めつつ、来るべき「人間・社会科学統合」に向けて世界的役割を果たしていくことが、本センターの今後の重要なミッションである。

資料1 CERSS コロキウム、共催ワークショップ学術セミナー等(Zoomによるオンライン開催)

日付	タイトル	講演者
共催シンポジウム		
2021/6/28	合意形成過程における集団心理	有馬淑子教授(奈良先端科学大学)
CERSS コロキウム		
2021/5/21	Bank Risk, Monetary Transmission, and Macroprudential Policy 銀行のリスク, 金融政策の伝播, およびマクロプルーデンス政策の分析	五十嵐洋介(北海道大学経済学研究院・准教授)
2021/5/25	Effect of spatial context on human visual perception and the dynamic nature of visual information processing.	金子沙永(北海道大学文学研究院・准教授)
2021/6/10	Crafting International Apologies that Work: A Conjoint Analysis Approach	小濱祥子(北海道大学法学研究科・准教授)
2021/7/8	退か、担うか、寄り添うか: 共同行為に潜む社会的意思決定	阿部匡樹(北海道大学大学院教育学研究院・准教授)
2021/7/29	進化生態学から考える個体の「ばらつき」～分業の進化と意思決定における個性～	伊藤公一(京大大学生態学研究センター・研究員、2021/8より北大人獣共通感染症国際共同研究所)
2022/2/10	生成変化の場としてのフィールドワークーカナダ・ユーコン準州における先住民コミュニティと北海道での狩猟実践を通して	山口未花子(北海道大学文学研究院・准教授)

資料2 学外研究機関との共同研究による施設利用実績

2021年度に本センターの参加者登録システムや実験設備のインフラを利用した実験は8件実施され、総実験室稼働日数は年間延べ24日、実験参加者総数は延べ1,058名であった。

さらに、2014年度より利用を開始した磁気共鳴画像装置(MRI)の2021年度稼働日数は169日、実験参加者総数は174名であった。

資料3 アウトリーチ活動

日付	タイトル	活動内容	実施者
2021/4/14	「誰一人取り残さない」社会の実現のために(心理学者が考える「持続可能な開発目標(SDGs)」第1回「環境問題について考える」)	講演	大沼進

2021/7/10	動物の不公平感～助け合いを支える感情の進化～(日本科学未来館『なぜ“不公平”はイヤなのだろう～動物でさぐる起源 社会にみえる不調和～』)	オンラインイベント	瀧本彩加
2021/10/30	プラスチック問題に関するワークショップ(札幌市環境プラザ後援)	ワークショップ	大沼進
2021/11/29	「処理水をめぐる課題を福島で考える、世界と考える」(第23回福島ダイアログ)	ダイアログパネリスト	大沼進
2021/12	さっぽろこども環境コンテスト2021	審査委員長	大沼進
2022/3/24	マスクで顔の魅力をアップするために知っておきたい。北海道大学の河原純一郎教授に聞いてみた(ほとんど0円大学)	インタビュー	河原純一郎

資料4 競争的資金獲得状況の詳細

文部科学省科学研究費(代表)

(社会科学実験研究センター構成員が代表を務める研究について、2021年度に交付された直接経費の総額)

資金名	期間(年度)	代表者(他・分担者数)	金額(千円)
研究課題			
新学術領域研究(研究領域提案型)	2020～2021	河原純一郎	
衛生マスクが生み出すポジティブ・ネガティブな顔遮蔽効果			1,600
新学術領域研究(研究領域提案型)	2020～2021	高橋伸幸	
偏狭な利他主義仮説の実証的検討			1,700
新学術領域研究(研究領域提案型)	2018～2022	田中真樹	
知覚や行動に伴う心的時間の脳内機構とその操作			42,900
基盤研究(A)	2020～2024	宮内泰介、他12名	
多層的で動的なプロセスとしてのコミュニティ:実践論的アプローチによる研究			8,190
基盤研究(A)	2021～2024	田中真樹	
状況適応的な行動制御における大脳小脳連関の役割			6,100
基盤研究(B)	2018～2022	阿部匡樹、他2名	
「好不調の波」を抑える:身体表現の揺らぎ発現メカニズムの解明			1,000
基盤研究(B)	2021～2023	小川健二	
経頭蓋電気刺激による安静時脳活動の操作と運動学習能力の制御			5,590
基盤研究(B)	2019～2022	尾崎一郎、他7名	
相互監視と分散的制裁—情報ネットワーク社会の法意識の解明による国家法の再定位—			3,300
基盤研究(B)	2018～2021	高橋伸幸	
利他性とサンクション、偏狭さ、外集団攻撃の間の連動についての理論的・実証的研究			2,200
基盤研究(B)	2021～2024	渡辺雅彦、他1名	
成体期におけるP/Q型カルシウムチャネルのシナプス刈込みへの機能的関与の検証			6,200

基盤研究 (B)	2021～2023	吉岡充弘、他 3 名	
正中縫線核セロトニン合成能低下による海馬機能低下とうつ様行動増加仮説の検証			5,500
基盤研究 (B)	2019～2022	結城雅樹	
称賛行動の比較社会生態心理学—褒め合う社会と褒めない社会を分けるものは何か			3,300
基盤研究 (C)	2020～2023	河原純一郎、他 1 名	
過敏性腸症候群を不安モデル症例とした新しい注意バイアス修正法の開発			3,600
基盤研究 (C)	2021～2023	松尾睦	
学習志向の決定要因に関する研究			1,000
基盤研究 (C)	2019～2021	大沼進	
無知のヴェールを用いた社会的決定過程：功利主義 vs 正義・公正を越えて			1,100
挑戦的研究(萌芽)	2020～2022	小浜祥子、他 3 名	
人質による合意保証メカニズムの研究			1,600
若手研究	2018～2021	五十嵐洋介	
金融政策と金融機関の資本規制の相互作用に関する分析			800
若手研究	2018～2021	金子沙永	
ヒト視知覚における時空間的文脈効果の脳内処理			1,200
若手研究	2018～2021	瀧本彩加	
ウマにおける同種他個体・ヒトとの社会的絆形成を促す心理・生理的要因に関する研究			840

文部科学省科学研究費（分担）

(社会科学実験研究センター構成員が分担者を務める研究について、2021 年度に社会科学実験研究センター兼務教員に配分された分担額)

資金名	期間(年度)	分担者	金額(千円)
研究課題		金額(千円)	
特別推進研究	2020～2024	渡辺雅彦(代表: 柚崎通介、他 1 名)	
細胞外足場タンパク質によるシナプス・非シナプス機能制御機構の解明			10,000
新学術領域研究(研究領域提案型)	2017～2021	竹澤正哲(代表: 橋本敬、他 8 名)	
言語の起源・進化の構成的理解			400
新学術領域研究(研究領域提案型)	2017～2021	渡辺雅彦(代表: 狩野方伸、他 32 名)	
先端バイオイメージング支援プラットフォーム			13,500
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2018～2023	小浜祥子(代表: 多湖淳、他 2 名)	
サーベイ実験による政治情報伝達現象の国際協働研究			200
基盤研究 (A)	2020～2024	金子沙永(代表: 栗木一郎、他 6 名)	
色情報の脳内処理過程と知覚との対応			400
基盤研究 (A)	2020～2023	小浜祥子(代表: 久米郁男、他 10 名)	
政治的分極化の総合的研究			200
基盤研究 (A)	2021～2026	小浜祥子(代表: 久保文明、他 19 名)	
現代アメリカにおける政治的地殻変動：政党再編と政策的収斂			50
基盤研究 (A)	2018～2021	小浜祥子(代表: 鈴木基史、他 8 名)	

国際制度の衰微と再生の政治経済分析			200
基盤研究 (A)	2017～2021	小浜祥子(代表: 多湖淳、他 2 名)	
国際紛争の初期段階における言葉の力：相手国非難と自己正当化をめぐる内容分析と実験			50
基盤研究 (A)	2019～2022	小川健二(代表: 乾敏郎、他 1 名)	
身体イメージを基礎とする社会的認知過程の自由エネルギー原理による統一的理解			1,300
基盤研究 (B)	2019～2021	宮内泰介(代表: 菅豊、他 11 名)	
「野の芸術」論—ヴァナキュラー概念を用いた民俗学的アート研究の視座の構築			200
基盤研究 (B)	2018～2021	宮内泰介(代表: 福永真弓、他 7 名)	
環境再生デザインの公共社会学：修復的環境正義の実践的理論構築に関する研究			50
基盤研究 (B)	2017～2021	宮内泰介(代表: 関礼子、他 11 名)	
語り継ぐ存在の身体性と関係性の社会学—排除と構築のオラリティ			100
基盤研究 (B)	2020～2023	河原純一郎(代表: 近藤洋史)	
知覚と注意のゆらぎのメカニズムを脳活動と自律神経系から統合的に理解する			400
基盤研究 (B)	2019～2022	河原純一郎(代表: 山口真美、他 1 名)	
乳児の視覚的注意の発達から意識の形成過程を実験的に検討する			400
基盤研究 (B)	2021～2025	松尾睦(代表: 高嶋克義、他 8 名)	
小売企業の仕入プロセス革新による優位性構築に関する研究			100
基盤研究 (B)	2021～2025	大沼進(代表: 安藤香織、他 3 名)	
多元的無知が環境配慮行動を阻害するプロセスの解明—国際比較調査・実験による検討			100
基盤研究 (C)	2021～2023	河原純一郎(代表: 佐藤広英、他 1 名)	
潜在連合テストによるスマートフォン依存リスク検出の試み			100
基盤研究 (C)	2019～2021	小川健二(代表: 杉尾武志、他 1 名)	
図的表現を用いた思考トレーニングによる空間的知能への影響およびその客観的評価			300
基盤研究 (C)	2021～2024	大沼進(代表: 水田恵三、他 2 名)	
なぜ戻り、どのように復興しようとしているのか—原発被害者の帰住に関する研究—			50
基盤研究 (C)	2021～2023	大沼進(代表: 大澤英昭、他 1 名)	
高レベル放射性廃棄物地層処分施設の立地方策選定過程が社会的受容に与える影響			100
基盤研究 (C)	2019～2022	瀧本彩加(代表: 中道正之、他 1 名)	
サル、ウマ、展示動物を対象とした「出会い」と「別れ」に関する行動研究			800

基盤研究 (C)	2021～2024	渡辺雅彦 (代表: 七戸俊明、他 1 名)	
医療機器開発における献体使用の基盤構築			100
挑戦的研究 (開拓)	2017～2021	小浜祥子 (代表: 多湖淳、他 5 名)	
集団謝罪をめぐる挑戦的学際研究			250
挑戦的研究 (開拓)	2019～2021	小川健二 (代表: 乾敏郎、他 1 名)	
主体的多感覚統合による知覚・認知過程の新しい枠組みの構築			1,000

文部科学省科学研究費を除く研究助成

社会科学実験研究センター構成員が代表及び分担者を務める研究について、2021 年度に社会科学実験研究センター兼務教員に交付・配分された金額)

資金名	期間	代表者・分担者	金額 (千円)
研究課題			金額 (千円)
生理学研究所共同利用研究	2017～2021	阿部匡樹、他 2 名	
共同運動課題時の複数名同時脳活動計測：コミュニケーション形成の神経的基盤を探る			495
科学技術融合振興財団調査研究 助成	2020～2022	大沼進、他 1 名	
対立する価値を超えた合意案の創発を見出すゲーミング開発			883
国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 (JST CREST)	2020～2025	大沼進 (代表: 伊藤孝行、他 3 名)	
ハイパーデモクラシー：ソーシャルマルチエージェントに基づく大規模合意形成プラットフォームの実現			3,000
原子力発電環境整備機構 地層処分に係る社会的側面に関する研究支援事業	2020～2021	大沼進 (代表: 野波寛、他 3 名)	
地層処分施設のための段階的・協調的アプローチの実践にむけた実証的研究：国民的議論の公正な進め方			360
環境省 (環境再生保全機構) 環境研究総合推進費	2021～2025	大沼進 (代表: 大迫政浩、他 9 名)	
3R プラスと海洋プラスチック排出抑制対策に係る評価システムの構築			1,538
国立大学法人北海道大学 研究推進部研究振興企画課 (研究人材育成担当) による 令和 3 年度 次世代研究者リーダー育成共同研究助成	2021	瀧本彩加	
ウマにおける同種他個体・ヒトとの音声コミュニケーションの機能の解明			1,000
厚生労働行政推進調査事業費	2021～2023	渡辺雅彦 (代表: 伊達洋至)	
献体による効果的医療技術教育システムの普及促進に関する研究			1,800

2021 年度研究業績一覧

【著書・分担執筆（洋書）】

Doi, S., Inamasu, K., Kohama, S., & Tago, A. (2021). South Korea–Japan FCR crisis and public opinion: Gathering survey data in real-time crisis development. In Kobayashi, T., & Tago, A. (Ed.) *Japanese Public Sentiment on South Korea*, Routledge.

Matsuo, M. (2021). Unlearning at work: Insights for organizations

Takimoto-Inose, A. (2021). Evolutionary perspective on prosocial behaviors in nonhuman animals. In Anderson, J. R., & Kuroshima, H. (Ed.) *Comparative Cognition – Commonalities and Diversity*, Springer Nature.

Yokoyama, M., Ohnuma, S., & Hirose, Y. (2021). Can the Veil of Ignorance Create Consensus?: A Qualitative Analysis Using the Siting for a Contaminated Waste Landfill Game. In Wardaszko, M., Meijer, S., Lukosch, H., Kanegae, H., Kriz, W. C., & Grzybowska-Brzezińska, M. (Ed.) *Simulation Gaming Through Times and Disciplines: Lecture Notes in Computer Science 11988*.

【著書・分担執筆（和書）】

小濱祥子. (2021). 核抑止制度をめぐるサーベイ実験：第二撃の実行条件. 鈴木基史・飯田敬輔(編). 『国際関係研究の方法：解説と実践』. 東京大学出版会.

小濱祥子. (2021). 日米関係：同盟をめぐる世論と政治エリート. 久保 文明・中山 俊宏・山岸 敬和・梅川 健(編). 『アメリカ政治の地殻変動』. 東京大学出版会.

松尾睦. (2021). 仕事のアンラーニング：働き方を学びほぐす. 同文館出版.

小川健二. (2021). 子安増生・丹野義彦・箱田裕司(編). 有斐閣現代心理学辞典. 有斐閣.

尾崎一郎. (2021). 法のクレオール論再考—2つの「外」について— 菅原寧格・郭舜(編). 『公正な法をめぐる問い』. 信山社.

結城雅樹. (2021). コラム—見栄を張る. 小田亮・橋彌和秀・大坪庸介(編). 進化でわかる人間行動の事典. 朝倉書店.

【学術雑誌（国際誌）】

Alsulaiman, W. A. A., Quillet, R., Bell, A. M., Dickie, A. C., Polgár, E., Boyle, K. A., Watanabe, M., Roome, R. B., Kania, A., Todd, A. J., & Gutierrez-Mecinas, M. (2021). Characterisation of lamina I anterolateral system neurons that express Cre in a Phox2a-Cre mouse line. *Scientific reports*, **11**(1), 17912, 10.1038/s41598-021-97105-w.

Haruki, Y., & Ogawa, K. (2021). Role of anatomical insular subdivisions in interoception: interoceptive attention and accuracy have dissociable substrates. *The European journal of neuroscience*, **53**(8), 2669-2680, 10.1111/ejn.15157.

Hashimoto, K., Yamawaki, Y., Yamaoka, K., Yoshida, T., Okada, K., Tan, W., Yamasaki, M., Matsumoto-Makidono, Y., Kubo, R., Nakayama, H., Kataoka, T., Kanematsu, T., Watanabe, M., Okamoto, Y., Morinobu, S., Aizawa, H., & Yamawaki, S. (2021). Spike firing attenuation of serotonin neurons in learned helplessness rats is reversed by ketamine. *Brain communications*, **3**(4), fcab285, 10.1093/braincomms/fcab285.

Hommerich, C., Ohnuma, S., Sato, K., & Mizutori, S. (2022). Determinants of Interdependent Happiness Focusing on the Role of Social Capital: Empirical Insight From Japan. *Japanese Psychological Research*, **64**(2), 205-221, 10.1111/jpr.12415.

Iida, I., Konno, K., Natsume, R., Abe, M., Watanabe, M., Sakimura, K., & Terunuma, M. (2021). A comparative analysis of kainate receptor GluK2 and GluK5 knockout mice in a pure genetic background. *Behavioural brain research*, **405**, 113194, 10.1016/j.bbr.2021.113194.

Kaji, I., Roland, J. T., Rathana-Kumar, S., Engevik, A. C., Burman, A., Goldstein, A. E., Watanabe, M., Goldenring, J. R. (2021). Cell differentiation is disrupted by MYO5B loss through Wnt/Notch imbalance. *JCI insight*, **6**(16), e150416, 10.1172/jci.insight.150416.

Kakizaki, T., Ohshiro, T., Itakura, M., Konno, K., Watanabe, M., Mushiake, H., & Yanagawa, Y. (2021). Rats deficient in the GAD65 isoform exhibit epilepsy and premature lethality. *FASEB journal*, **35**(2), e21224, 10.1096/fj.202001935R.

Kamatani, M., Ito, M., Miyazaki, Y., & Kawahara, J. I. (2021). Effects of masks worn to protect against COVID-19 on the perception of facial attractiveness. *i-Perception*, **12**(3), 10.1177/20416695211027920.

Kamnate, A., Sirisin, J., Polsan, Y., Chomphoo, S., Watanabe, M., Kondo, H., & Hipkaeo, W. (2021). In situ localization of diacylglycerol lipase α and β producing an endocannabinoid 2-arachidonoylglycerol and of cannabinoid receptor 1 in the primary oocytes of postnatal mice. *Journal of anatomy*, **238**(6), 1330-1340, 10.1111/joa.13392.

Kasai, T. (2021). Effects of irrelevant object structure on early attention deployment. *Consciousness and Cognition*, **92**, 103141, 10.1016/j.concog.2021.103141.

Kasai, T., Kitajo, K., & Makinae, S. (2021). Behavioral and electrophysiological investigations of effects of temporal regularity on illusory-figure processing. *Brain Research*, **1766**, 147521, 10.1016/j.brainres.2021.147521.

Kondo, H. M., Terashima, H., Ezaki, T., Kochiyama, T., Kihara, K., & Kawahara, J. I. (2022). Dynamic Transitions Between Brain States Predict Auditory Attentional Fluctuations. *Frontiers in Neuroscience*, **16**, 816735, 10.3389/fnins.2022.816735.

Lai, E. S. K., Nakayama, H., Miyazaki, T., Nakazawa, T., Tabuchi, K., Hashimoto, K., Watanabe, M., & Kano, M. (2021). An Autism-Associated Neurologin-3 Mutation Affects Developmental Synapse Elimination in the Cerebellum. *Frontiers in neural circuits*, **15**, 676891, 10.3389/fncir.2021.676891.

Lang, M., Xygalatas, D., Kavanagh, C. M., Boccardi, N., Halberstadt, J., Jackson, C., Martínez, M., Reddish, P., Tong, E. M. W., Vázquez, A., Whitehouse, H., Yamamoto, M. E., Yuki, M., & Gomez, A. (2021). Outgroup threat and the emergence of cohesive groups: A cross-cultural examination. *Group Processes & Intergroup Relations*, 10.1177/13684302211016961.

Li, L. M. W., Chen, Q., Gao, H., Li, W.-Q., & Ito, K. (2021). Online/offline self-disclosure to offline friends and relational outcomes in a diary study: The moderating role of self-esteem and relational closeness. *International Journal of Psychology*, **56**(1), 129-137, 10.1002/ijop.12684.

Li, W.-Q., Li, L. M. W., Jiang, D., & Liu, S. (2021). Fate control and ingroup bias in donation for the fight with the coronavirus pandemic: The mediating role of risk perception of COVID-19. *Personality and Individual Differences*, **171**, 110456, 10.1016/j.paid.2020.110456.

Li, W.-Q., Li, L. M. W., & Lou, N. M. (2021). Who moved with you? The companionship of significant others reduces movers' motivation to make new friends. *Asian Journal of Social Psychology*, **25**(2), 319-335, 10.1111/ajsp.12497.

Luis, M. V.-L., Callado, F., Aso, E., Cajiao-Manrique, M. M., Sahlholm, K., López-Cano, M., Soler, C., Altafaj, X., Watanabe, M., Ferré, S., Fernández-Dueñas, V., Menchón, J. M., & Ciruela, F. (2021). Decreased striatal adenosine A2A-dopamine D2 receptor heteromerization in schizophrenia. *Neuropsychopharmacology*, **46**(3), 665-672, 10.1038/s41386-020-00872-9.

Maezawa, T., & Kawahara, J. I. (2021). Commonalities of visual and auditory working memory in a spatial-updating task. *Memory & Cognition*, **49**(6), 1172-1187, 10.3758/s13421-021-01151-8.

Maezawa, T., & Kawahara, J. I. (2021). A label indicating an old year of establishment improves evaluations of restaurants and shops serving traditional foods. *PLoS ONE*, **16**(11), e0259063, 10.1371/journal.pone.0259063.

Maezawa, T., & Kawahara, J. I. (in press). Processing symmetry between visual and auditory spatial representations. *Quarterly Journal of Experimental Psychology*.

- Maetzawa, T., Kiyosawa, M., & Kawahara, J. I. (2022). Auditory enhancement of visual searches for event scenes. *Attention, Perception, & Psychophysics*, **84**(2), 427-441, 10.3758/s13414-021-02433-8.
- Matsuo, M. (2022). Influences of developmental job experience and learning goal orientation on employee creativity: Mediating role of psychological empowerment. *Human Resource Development International*, **25**(1), 4-18, 10.1080/13678868.2020.1824449.
- Matsuo, M. (2021). Reflecting on Success in Difficult Times: A Key to Enhance Proactivity and Employability. *SAGE Open*, **11**(4), DOI: 10.1177/21582440211059167.
- Matsuo, M. (2021). The role of supervisor support for strengths use in promoting perceived employability and career satisfaction. *Personnel Review*, DOI 10.1108/PR-01-2021-0026.
- Matsuo, M. (2021). Promoting employee's self-change skills: The role of job characteristics, goal clarity, and learning goals. *International Journal of Training and Development*, **25**(1), 60-76, 10.1111/ijtd.12207.
- Matsuo, M. (2021). Antecedents of psychological empowerment: the effects of developmental experience, learning goal and authenticity. *Asia Pacific Journal of Human Resources*, **59**(1), 44-62, 10.1111/1744-7941.12228.
- Matsuo, M. (2021). Reflection on success in promoting authenticity and proactive behavior: A two-wave study. *Current Psychology*, **1**(9), 10.1007/s12144-021-01352-z.
- Matsuo, M., and Aihara, M. (2022). Effect of a community of practice on knowledge sharing across boundaries: The mediating role of learning goals. *Journal of Knowledge Management*, **26**(1), 1-16, 10.1108/JKM-08-2020-0604.
- Matsuo, M., Matsuo, T., & Arai, K. (2021). The influence of an interactive use of management control on individual performance: Mediating roles of psychological empowerment and proactive behavior. *Journal of Accounting & Organizational Change*, **17**(2), 263-281, 10.1108/JAOC-06-2020-0079.
- Matsuoka, T., Yamasaki, M., Abe, M., Matsuda, Y., Morino, H., Kawakami, H., Sakimura, K., Watanabe, M., & Hashimoto, K. (2021). Kv11 (ether-à-go-go-related gene) voltage-dependent K⁺ channels promote resonance and oscillation of subthreshold membrane potentials. *The Journal of physiology*, **599**(2), 547-569, 10.1113/JP280342.
- Miwa, H., Kobayashi, K., Hirai, S., Yamada, M., Watanabe, M., Okado, H., & Yanagawa, Y. (2021). GAD67-mediated GABA Synthesis and Signaling Impinges on Directing Basket Cell Axonal Projections Toward Purkinje Cells in the Cerebellum. *Cerebellum*, 10.1007/s12311-021-01334-8.
- Miyata, S., Kakizaki, T., Fujihara, K., Obinata, H., Hirano, T., Nakai, J., Tanaka, M., Itoharu, S., Watanabe, M., Tanaka, K. F., Abe, M., Sakimura, K., & Yanagawa, Y. (2021). Global knockdown of glutamate decarboxylase 67 elicits emotional abnormality in mice. *Molecular brain*, **14**(1), 5-5, 10.1186/s13041-020-00713-2.
- Miyazaki, T., Morimoto-Tomita, M., Berthou, C., Konno, K., Noam, Y., Yamasaki, T., Verhage, M., Castillo, P. E., Watanabe, M., & Tomita, S. (2021). Excitatory and inhibitory receptors utilize distinct post- and trans-synaptic mechanisms in vivo. *eLife*, **10**, 10.7554/eLife.59613.
- Nishitani, N., Ohmura, Y., Kobayashi, K., Murashita, T., Yoshida, T., & Yoshioka, M. (2021). Serotonin neurons in the median raphe nucleus bidirectionally regulate somatic signs of nicotine withdrawal in mice. *Biochemical and biophysical research communications*, **562**, 62-68, 10.1016/j.bbrc.2021.05.052.
- Ohnuma, S., Kuwayama, R., Kobayashi, T. (2021). Psychological and Demographical Determinants of Adopting Expensive Energy-efficient Facilities in Households. *Journal of Environmental Information Science*, **2021**(1), 37-48, 10.11492/ceispapersen.2021.1_37.
- Ohnuma, S., Yokoyama, M., & Mizutori, S. (2022). Procedural fairness and expected outcome evaluations in the public acceptance of sustainability policymaking: A case study of multiple stepwise participatory programs to develop an environmental master plan for Sapporo. *Japan sustainability*, **14**(6), 3403, 10.3390/su14063403.
- Ohtsubo, Y., Inamasu, K., Kohama, S., Mifune, N., & Tago, A. (2021). Resistance to the six elements of political apologies: Who opposes which elements? *Peace and Conflict*, **27**(3), 449-458, 10.1037/pac0000456.
- Osugi, T., & Kawahara, J. I. (2021). The spill-over effect of the formal bowing motion on subjective facial attractiveness. *Japanese Psychological Research*, 10.1111/jpr.12347.
- Saito, Y., Maetzawa, T., & Kawahara, J. I. (2021). Beat Patterns Determine Inter-Hand Differences in Synchronization Error in a Bimanual Coordination Tapping Task. *i-Perception*, **12**(5), 10.1177/20416695211053882.
- Sato, S., Noda, S., Torii, S., Amo, T., Ikeda, A., Funayama, M., Yamaguchi, J., Fukuda, T., Kondo, H., Tada, N., Arakawa, J., Watanabe, M., Uchiyama, Y., Shimizu, S., & Hattori, N. (2021). Homeostatic p62 levels and inclusion body formation in CHCHD2 knockout mice. *Human molecular genetics*, **30**(6), 443-453, 10.1093/hmg/ddab057.
- Shiotani, H., Miyata, M., Kameyama, T., Mandai, K., Yamasaki, M., Watanabe, M., Mizutani, K., & Takai, Y. (2021). Nectin-2 α is localized at cholinergic neuron dendrites and regulates synapse formation in the medial habenula. *The Journal of comparative neurology*, **529**(2), 450-477, 10.1002/cne.24958.
- Szocsics, P., Papp, P., Havas, L., Watanabe, M., Maglóczy, Z. (2021). Perisomatic innervation and neurochemical features of giant pyramidal neurons in both hemispheres of the human primary motor cortex. *Brain structure & function*, **226**(1), 281-296, 10.1007/s00429-020-02182-8.
- Tateishi, W., Hashimoto, H., & Takahashi, N. (2021). Reputation of Those Who Cooperate Beyond Group Boundaries: A Comparison of Universalistic and In-Group Favoring Strategies. *Letters on Evolutionary Behavioral Science*, **12**(2), 46-53, 10.5178/lebs.2021.89.
- Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kawahara, J. I. (2021). Attentional blink in preverbal infants. *Cognition*, **214**, 104749, 10.1016/j.cognition.2021.104749.
- Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kawahara, J. I. (2022). Development of upper visual field bias for faces in infants. *Developmental Science*, 10.1111/desc.13262.
- Uematsu, A., & Tanaka, M. (2022). Effects of GABAergic and glutamatergic inputs on temporal prediction signals in the primate cerebellar nucleus. *Neuroscience*, **482**(1), 159-160, 10.1016/j.neuroscience.2021.11.047.
- Uno, T., Kasai, T., & Seki, A. (2021). The Developmental Change of Print-Tuned N170 in Highly Transparent Writing Systems. *Japanese Psychological Research*, 10.1111/jpr.12397.
- Wilheim, T., Nagy, K., Mohanraj, M., Ziarniak, K., Watanabe, M., Sliwowska, J., & Kalló, I. (2021). Expression of type one cannabinoid receptor in different subpopulation of kisspeptin neurons and kisspeptin afferents to GnRH neurons in female mice. *Brain structure & function*, **226**(7), 2387-2399, 10.1007/s00429-021-02339-z.
- Yamasaki, M., Aiba, A., Kano, M., & Watanabe, M. (2021). mGluR1 signaling in cerebellar Purkinje cells: Subcellular organization and involvement in cerebellar function and disease. *Neuropharmacology*, **194**, 108629, 10.1016/j.neuropharm.2021.108629.
- Yamazaki, K., Kawabori, M., Seki, T., Takamiya, S., Konno, K., Watanabe, M., Houkin, K., & Fujimura, M. (2021). Mesenchymal Stem Cell Sheet Promotes Functional Recovery and Palliates Neuropathic Pain in a Subacute Spinal Cord Injury Model. *Stem cells international*, **2021**, 9964877, 10.1155/2021/9964877.
- Yang, H., Hu, Z., Imai, F., Yang, Y., & Ogawa, K. (2021). Effects of neurofeedback on the activities of motor-related areas by using motor execution and imagery. *Neuroscience letters*, **746**, 135653, 10.1016/j.neulet.2021.135653.

- 足立千尋・大沼進. (2021). レジ袋有料化に伴うコンビニエンスストアにおけるレジ袋辞退率の変化—札幌市における店頭観察調査—, 廃棄物資源循環学会論文誌, **32**(1), 65-71, 10.3985/jismcwm.32.65.
- 鎌谷 美希・伊藤資浩・宮崎由樹・河原純一郎. (2021). COVID-19 流行が黒色衛生マスク着用者への顕在的・潜在的態度に及ぼす影響. 心理学研究, **92**(5), 350-359, 10.4992/jjpsy.92.20046.
- 鎌谷美希・瀧本(猪瀬)彩加. (2021). ウマは同齢の同種他個体に視覚的選好を示すか 類似性の原則に着目した実験的検討, 北海道心理学研究(Web), **43**(1), 15, 10.20654/hps.43.0_1.
- 鬼頭 美江・前田 友吾. (2021). COVID-19 の感染拡大および終息に与える関係流動性の影響 —社会生態学的視点からの考察—. 心理学研究, **92**(5), 473-481, 10.4992/jjpsy.92.20404.
- 宮内泰介・金城達也. (2021). ライフヒストリーから見るイワシ産業の地域史—長崎県雲仙市南串山町の事例から—. 地域漁業研究, **61**(1), 11-20, 10.34510/jrfs.61.1_11.
- 尾崎一郎. (2021). 基調報告 (「日本国憲法のアイデンティティ」へのコメント). 論究ジュリスト, **37**.
- 尾崎一郎. (2021). 法の外来性と受容についての覚え書き. 琉球法学, **104**, 91-99.
- 朱瑤・大沼進. (2021). 共通運命の認識に着目した集団を超えた全体への協力の実現過程：地球規模の環境問題を模した仮想世界ゲームを用いた検討. シミュレーション&ゲーミング, **31**(1), 38-49, 10.32165/jasag.31.1_38.
- 杉浦 淳吉・大沼 進・広瀬 幸雄. (2021). 合意形成ゲーム「市民プロフィール」の開発：ドイツ・ノイス市の都市政策の社会調査事例から. シミュレーション&ゲーミング, **31**(1), 27-37, 10.32165/jasag.31.1_27.
- 館石和香葉・小野田竜一・高橋伸幸. (2021). 罰行使の動機推定が評判に与える影響：複数の罰選択肢を用いた検討. 社会心理学研究, **36**(3), 96-103, 10.14966/jssp.1916.
- 横山実紀・大沼進. (2022). NIMBY の決め方の合意への無知のヴェールの有効性と限界：高レベル放射性廃棄物処分地選定合意形成ゲームの開発と試行. シミュレーション&ゲーミング, **31**(2), 130-142, 10.32165/jasag.31.2_130.
- 【学会発表（国際学会）】**
- Fuji, A., & Kasai, T. (2021). Hair color and prejudice in Japan: a case study. *The 32nd International Congress of Psychology*.
- Jin, A., Yuki, M., & Talhelm, T. (2021). The Effects of Rice Cultivation Style on People's Psychological Tendencies: Comparing North and South Vietnam, *2022 The Society for Personality and Social Psychology Annual Convention*.
- Kamatani, M., Kawai, M., & Takimoto-Inose, A. (2021). Behavioral switching of a mare for her newborn foal before going down a steep slope toward a river: a case report in domestic horses (*Equus caballus*). *The 81st Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology*.
- Kaneko, S., Kuriki, I., & Peterzell, D. H. (2021). In search of early cortical mechanisms for color: individual variability in steady-state VEP amplitudes for hues sweeping around the isoluminant LM and S cone-opponent plane. *Vision Sciences Society Annual Meeting 2021*.
- Kaneko, S., Kuriki, I., & Peterzell, D. H. (2021). In search of early cortical mechanisms for color: individual variability in steady-state VEP amplitudes for hues sweeping around the isoluminant LM and S cone-opponent plane. *Vision Sciences Society Annual Meeting 2021*.
- Kasai, T., & Sakata, Y. (2021). Stabilized time perception with visual consistency in elderly people. *The 32nd International Congress of Psychology*.
- Li, W. Q. (2021). Cultural differences in direct versus indirect social control: The role of relational mobility. *The 2021 Society for Personality and Social Psychology Virtual Annual Convention*.
- Li, W. Q. (2021). Why people in "collectivistic cultures" hide their prosocial behaviors: Relational mobility matters. *The Virtual 2021 International Association for Cross-Cultural Psychology Conference*.
- Maeda, Y., & Yuki, M. (2021). Proud or embarrassed? Relational mobility explains cultural differences in reactions to success. *25th International Congress of Cross-Cultural Psychology*.
- Maeda, Y., & Yuki, M. (2021). Why does relational mobility affect pride and embarrassment for success? A test of a signaling function hypothesis. *2021 Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology*.
- Mashima, R., & Takahashi, N. (2021). What types of behaviors do people spread to others in indirect reciprocity?: Vignette study to examine the pattern of transmission of information in situations of indirect reciprocity. *The 32nd International Congress of Psychology*.
- Matsuda, N., & Abe M. O. (2021). The effect of transcranial direct current stimulation of the pre-supplementary motor area on the imitation-inhibition task depends on the autism spectrum traits. *SfN Global Connectome*.
- Miyazaki, M., Ishikawa, K., Nakashima, K., Shimizu, H., Takahashi, T., & Takahashi, N. (2021). Application of the Symbolic Regression Program, AI-Feynman to Psychology. *The 32nd International Congress of Psychology*.
- Ohnuma, S., & Yokoyama, M. (2021). Effects of decision way under the veil of ignorance on public acceptance of site for radioactive waste: A scenario experiment. *The Society for Risk Analysis - European 29th Annual Conference*.
- Tateishi, W., & Takahashi, N. (2021). How can we transform from a "collectivistic" society into a "universalistic" society? *The 32nd International Congress of Psychology*.
- Wada, C., Katsu, N., Adachi, I., Kawai, M., & Takimoto-Inose, A. (2021). An exploratory study on developmental changes of contexts and functions of mare-foal vocalizations in domestic horses (*Equus caballus*). *The 81st Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology*.
- Wada, C., Katsu, N., Adachi, I., Kawai, M., & Takimoto-Inose, A. (2021). An exploratory study on contexts, developmental changes and functions of mare-foal vocalizations in domestic horses (*Equus caballus*). *20th Biennial Meeting of the International Society for Comparative Psychology*.
- Yang, Y., Yang, H., Imai, F., & Ogawa, K. (2021). Plasticity of the premotor cortex for fMRI neurofeedback using motor execution. *27th annual meeting of The Organization for Human Brain Mapping*.
- Yang, J., Kaneko, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kuriki, I. (2021). The development of hue selectivity in human visual cortex. *Vision Sciences Society Annual Meeting 2021*.
- Yuki, M. (2021). Low Relational Mobility, Fear of Sticking Out, and Concealment of Prosocial Behaviours. *Cooperation Colloquium*.
- 【学会発表（国内学会）】**
- 新井田光希・晴木祐助・今井史・小川健二. (2021). 時間の長さ及びテンポの速さ判断時の脳活動. 日本心理学会若手の会・異分野間協働懇話会.
- 原田直輝・河西哲子. (2021). 顔表情に対する注意の時間的推移. 第39回日本生理心理学会大会.
- 平山詠大・河西哲子. (2021). 気分がよいとなぜ記憶容量が増えるのか—クラシック音楽を用いた検討—. 第39回日本生理心理学会大会.
- 保高徹生・高田モモ・白井浩介・大沼進・村上道夫・山田一夫・大迫政浩. (2021). 除染廃棄物等の福島県外最終処分

- の立地受容性に係るアンケート結果. 第10回環境放射能除染研究発表会.
- 本間祥吾・山縣豊樹・小川健二・田口茂・竹澤正哲. (2021). 「自他の重ね合わせ」は脳に表現されているか：現象学と脳機能イメージングによる学際的検討. 日本社会心理学 62 回大会.
- 本間祥吾・山縣豊樹・小川健二・田口茂・竹澤正哲. (2021). 脳の中に「自他の重ね合わせ」は存在するか：哲学と認知神経科学の学際的アプローチ. 日本人間行動進化学会 第 14 回大会.
- Jin, A. Yuki, M., & Talhelm, T. (2021). The Effects of Rice Cultivation Style on People's Psychological Tendencies: Comparing North and South Vietnam. 日本社会心理学会第 62 回大会.
- 前田友吾・結城雅樹. (2021). 関係流動性が成功状況での感情経験の文化差を生むメカニズム - 動機付け機能仮説の検討-. 日本心理学会第 85 回大会.
- 真島理恵・川村 樹・岡本悠衣・高橋 伸幸. (2021). 間接互惠性状況における情報伝達バイアスの検討. 日本グループ・ダイナミクス学会第 67 回大会.
- 松田直祥・阿部匡樹. (2021). 模倣抑制トレーニングが表情認知に及ぼす影響. 日本心理学会第 85 回大会.
- 水鳥翔伍・館石和香葉・一條航平・高橋伸幸. (2021). 速い協力者は遅い協力者よりも好まれるか. 日本社会心理学会 第 62 回大会.
- 宮崎聖人. (2021). 遺伝的プログラミングを用いた AI による強化学習モデルの探索. 行動計量学会第 49 回大会.
- 宮崎聖人. (2021). 遺伝的プログラミングを用いた AI による強化学習モデルの探索. 日本心理学会第 85 回大会.
- 小楠なつき・結城雅樹. (2022). 人間社会における、関係流動性の変動とこれに伴う心理的順応. 第 69 回日本生態学会.
- 大沼進. (2022). 民主主義を実験する：多元的公正の実現に向けた話し合いの場の作り方. コレクティブインテリジェンスシンポジウム 7.
- 大沼進. (2022). 多元的公正を実現する実験民主主義. 人工知能とサービス科学研究所&行動科学研究所シンポジウム.
- 大沼進・相馬ゆめ・中山幸太. (2021). 寿都町・神恵内村での文献調査に伴う「対話の場」を巡る諸相. 日本リスク学会第 34 回年次大会 企画セッション「地層処分に係るリスクコミュニケーションの諸問題」.
- 大沼進・相馬ゆめ・横山実紀・中澤高師・辰巳智行. (2021). 集団極化は悪者なのか：低濃度除去土壌県外処理問題を題材とした集団討議実験. 日本リスク学会第 34 回年次大会.
- 大沼進・横山実紀. (2021). 地熱発電合意形成ゲームの実演. 日本シミュレーション&ゲーミング学会 2021 年秋期全国大会.
- 大沼進・横山実紀・土田茜. (2021). 高レベル放射性廃棄物地層処分地選定を巡る保護価値と量的非感性性. 日本リスク学会第 34 回年次大会 企画セッション「地層処分地の選定に向けた段階的・協調的アプローチ：国民的議論の進め方をめぐる実証的研究」.
- 大友沙紀・金子沙永・羽鳥康裕・塩入諭・栗木一郎. (2021). 定常視覚誘発電位を用いたマスキング実験による色情報機序の考察. 日本視覚学会 2021 年冬季大会.
- 白井 浩介・大沼進・村上道夫・高田モモ・山田一夫・大迫政浩・保高徹生. (2021). 福島事故後に発生した焼却灰に関する福島県外最終処分場立地受容性に係る影響因子の評価. 第 10 回環境放射能除染研究発表会.
- 相馬ゆめ・横山実紀・中澤高師・辰巳智行・大沼進. (2021). 公共的討議の「議論の質」の評価指標開発：低濃度除去土壌県外処理問題を題材とした集団討議実験. 日本リスク学会第 34 回年次大会.
- 瀧本彩加. (2021). 比較認知科学研究における複数の指標の同時測定. 日本心理学会第 85 回大会.
- 瀧本彩加・藤田和生. (2021). 協力は、フサオマキザルのコストを伴う向社会的な報酬分配を促進するか？ 関西心理学会第 123 回大会.
- 瀧本彩加・田中未菜・上野将敬・河合正人. (2021). 仔ウマの親和的關係の形成に母ウマが及ぼす影響. 日本心理学会第 85 回大会.
- 館石和香葉・橋本博文・高橋伸幸. (2021). 集団にとらわれない協力行動がもたらす評判. 日本社会心理学会第 62 回大会.
- 館石和香葉・高橋伸幸. (2021). AllC は集団主義均衡・普遍主義均衡の安定性に影響を与えるのか？ 第 14 回日本人間行動進化学会.
- 山縣豊樹・水鳥翔伍・市川加伊斗・小川健二. (2021). ラバーハンド錯覚の主観的強度における個人差を定量化する試み - 階層的順序プロビット回帰モデルの適用による錯覚誘導「無反応者」の推定. 日本行動計量学会第 49 回大会.
- 結城雅樹. (2021). Why are people in individualistic cultures more proactive in interpersonal relationships than in collectivistic cultures? The role of relational mobility. *C&V Webinar (Monthly Multidisciplinary Webinars on Culture and Values)*.

(2022年3月現在)

(1) 兼務教員一覧

大沼進	文学研究院・教授、 社会科学実験研究センター長
渡辺雅彦	医学研究院・教授、 社会科学実験研究副センター長
宮内泰介	文学研究院・教授
尾崎一郎	法学研究科附属高等法政教育研究センター・教授
五十嵐洋介	公共政策学連携研究部・准教授
小浜祥子	公共政策学連携研究部・准教授
松尾睦	経済学研究院・教授
吉岡充弘	医学研究院・教授 (2021年9月逝去)
田中真樹	医学研究院・教授
結城雅樹	文学研究院・教授
高橋泰城	文学研究院・准教授
高橋伸幸	文学研究院・教授
竹澤正哲	文学研究院・准教授
小川健二	文学研究院・准教授
瀧本彩加	文学研究院・准教授
河原純一郎	文学研究院・教授
金子沙永	文学研究院・准教授
河西哲子	教育学研究院・教授
阿部匡樹	教育学研究院・准教授
中島晃	文学研究院・助教

(2) 連携研究員一覧

坂上雅道	玉川大学脳科学研究所、 大学院脳情報研究科・教授
亀田達也	東京大学大学院人文社会系研究 科・教授

増田貴彦	アルバータ大学・教授
Harvey Whitehouse	オックスフォード大学・教授
Kim-Pong Tam	香港科技大学・准教授
仲 真紀子	立命館大学総合心理学部・教授

(3) 運営委員会委員一覧

大沼進	文学研究院・教授、 社会科学実験研究センター長
渡辺雅彦	医学研究院・教授
小浜祥子	公共政策学連携研究部・准教授
米田雅宏	法学研究科・教授
相馬雅代	理学研究院・准教授
田畑伸一郎	スラブ・ユーラシア研究センター・教授
小川健二	文学研究院・准教授
尾崎一郎	法学研究科・教授
河西哲子	教育学研究院・教授
松尾睦	経済学研究院・教授

(4) 研究倫理委員会委員一覧

高橋伸幸	文学研究院・教授
松尾睦	経済学研究院・教授
石井敬子	名古屋大学情報学研究科・准教授
河合正人	北方生物圏フィールド科学センター・ 准教授

(5) 点検評価委員会委員一覧

大沼進	文学研究院・教授、 社会科学実験研究センター長
結城雅樹	文学研究院・教授
石井敬子	名古屋大学情報学研究科・准教授 (外部委員)
池田徹	文学事務部事務長



社会科学実験研究センター